

★ 堺教会の新聞「いずみのひろば」はぜひ家族の人といっしょに読んで下さい。

いずみのひろば

2017年6月号
日本基督教団堺教会
No. 463 教会学校

「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」

イエスさまは十字架にかけられる前にゲッセマネというところで、お祈りをされていました。

十字架の苦しみ、父である神さまに見すてられる悲しみで胸がはりさけそうでした。

イエスさまは、神さまに向かって、「わたしを十字架にかけをやめてください」と祈られました。

けれども同時に、「でも、わたしの願いではなく、お父さんのしたいようにしてください」とも祈られました。

イエスさまは、十字架からのがれたいと願うとともに、神さまが自分を十字架にかけることによって、

わたしたち人間に命をあたえたい、と願っていることを知っていたからです。

そして、神さまはイエスさまを十字架にかけて、わたしたちに命をあたえることを決められました。

実はこの時、そばにいた弟子たちは、祈っていなさい、と言われていたのに、眠りこけていたのです！

主の祈りのなかに、「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」という祈りがあります。

御心というのは、神さまの心、思いのことです。神さまの思いどおりにしてください、という意味です。

これはゲッセマネでイエスさまが祈られた祈りと同じですね。

イエスさまが苦しんでいる時に眠りこけ、逮捕されたときに逃げ出してしまうようなわたしたちに、

そしてなにより、わたしたちのためにイエスさまが苦しんだと言うのに、

「御心の天になるごとく、地にもなさせたまえ」なんて祈っていいのでしょうか？

でも、主の祈りはイエスさまが教えてくださった祈りです。

イエスさまはきっと、自分を十字架にかけてまで、わたしたちに命をあたえたい、

と願った神さまの愛を知ってほしかったんだと思います。

神さまの愛を知らなかったり、忘れたりすると、イエスさまの苦しみがムダになってしまう気がします。

だから、わたしたちは神さまとイエスさまへの感謝の気持ちをこめて、主の祈りを祈りたいと思うのです。

(おはなし 小林素子先生)

